

## 7月12日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●ウクライナにロシアに勝利のチャンスなし＝ケネディ・ジュニア米大統領立候補者 (2023年7月9日)

ウクライナがこの戦争でロシアに勝利するような事態の展開は一切ない。米大統領選挙への民主党からの指名争いへの出馬を表明しているロバート・ケネディ・ジュニア(69)はソ連出身米国籍の研究者のレックス・フリードマン氏の Youtube チャンネルに出演した中でこうした声明を表した。

「この世にわずか 1 つでもウクライナ人がロシア人に勝利する方法があるとは思えない。欧州は今、深刻な問題に直面していると考えている。ドイツ、イタリア、フランスで暴動が起きているのを目にしているのではないか。これら諸国は内政問題を抱えている。欧州にはウクライナのために命を捧げる人員を送る気はない。だがウクライナの人員はもう尽きている」ケネディ氏はこう語っている。

ケネディ氏はまた、ウクライナ軍は部隊の人員不足を埋めるために強制動員をかけており、徴兵年齢の男子は戦線行きを免れようと、ウクライナの国外に出ようと必死だと指摘した。

6 月初め、ケネディ氏は米国の生物学研究所について声明を表し、そういった研究所は世界中にあり、ウクライナにもあると明言している。



### ●米国クラスター爆弾のウクライナ供与は欧米の弱さを露呈＝仏ル・モンド紙(2023年7月9日)

仏ル・モンド紙は、米国政府がウクライナ軍へのクラスター爆弾供与を決めたことは米国がロシアに対して抱く恐怖と米国の同盟国らの弱さを物語っていると報じた。

ル・モンド紙は「ホワイトハウスが認めたように、現在進行中の通常戦の集中度があまりに高いことから、打開策として優勢なロシアの大砲に対抗するために、論争の的である物資(編集:クラスター爆弾)の供給に踏み切るほど、米国の備蓄は追い詰められている。この弱さの告白は、ウクライナが西側に持つ全ての同盟国に関わるものだ」と報じている。

ル・モンド紙は仮にウクライナ軍がロシア軍と対等に戦えるとしても、この弾薬の供給によって犠牲となるのは主に民間人だという明白な危険性を認めざるを得ないと指摘している。

ホワイトハウスは 7 月 7 日、ウクライナに国際条約で使用が禁止されているクラスター爆弾の供与

の決定を明らかにした。この条約には世界 13 か国が調印しており、ウクライナもその中に含まれる。

ロシア外務省は米国の決定を「絶望のジェスチャー」として、厳しく糾弾した。



## ●【視点】「これはウクライナの反攻が壊滅的に失敗したことを示している」ウクライナへのクラスター爆弾供与の理由について専門家が語る(2023年7月9日)

米国のバイデン大統領は 7 日、同政権が 8 億ドル相当の新たなウクライナ向け軍事支援パッケージの一環としてクラスター爆弾を供与することを確認した。スプートニク通信は、バイデン政権がクラスター爆弾の供与を決定した理由について、米国の政治評論家に話を聞いた。

政治評論家で活動家のフィル・ケリー氏はスプートニク通信に対し、米国のウクライナへのクラスター爆弾の供与は、兵器の使用に関する米政府のおなじみの「ダブルスタンダード」を浮き彫りにしていると語った。

「われわれは『ルールに基づく国際秩序』というフレーズをよく耳にする。これは米国が考えた意味のないフレーズであり、別の国が犯罪を犯した場合にはその国が責任を問われる可能性があるが、米国そのものは対象外であることを意味している。なぜなら米国がこのような規則を定めているからだ」バイデン政権の決定は、ウクライナとその北大西洋条約機構(NATO)の支援国にとって状況が絶望的になっていることを示しているという。

「ウクライナの反転攻勢に関する情報がまったくないことは、それが完全かつ壊滅的に失敗したことを示している。したがって、これらの爆弾の供与も完全な絶望を物語っている」

ケリー氏は自身の考えを強調するために、ウクライナのゼレンスキー大統領がロシアとの戦いに NATO 軍を引き込もうとする試みを強めていることを指摘した。

「ウクライナはその人的資源も浪費している。だからこそゼレンスキー氏は、ドイツ製戦車や米国の戦車および F16 戦闘機以外のものも求めているのだ。彼は、ウクライナの戦闘に欧州諸国の息子や娘たちを派遣することについて話し始めている。ウクライナは勝つことができない戦争であらゆる世代の人々を失っている」

ケリー氏は、負けの紛争に参加することは「米国の兵器製造業会社にとっては朗報だが、まともな未来を目指しているウクライナの人々にとってはそれほど良い知らせではない」との見方を示している。



## ●「絶望のジェスチャー」露外務省、宇へのクラスター爆弾供与に関する米国の決定を批判(2023年7月9日)

ロシア外務省のザハロワ報道官は 7 日、米国がウクライナへのクラスター爆弾の供与を決めたことについてコメントを出し、これはウクライナ紛争の長期化を狙った攻撃的な路線のあらわれだと指摘した。

ザハロワ氏はコメントの中で、米国がウクライナにクラスター爆弾を供与した場合、米国は「事実上、領土への地雷敷設の共同参加者となり、ロシアとウクライナの子どもたちを含む、爆発で死亡した人々に対する責任を完全に共有することになる」と述べている。

ザハロワ氏はまた、クラスター爆弾の供与は「広く宣伝されたウクライナの反転攻勢の失敗を背景とした絶望のジェスチャー」となったとし、戦闘経過には影響しないと指摘した。

「重大な結果を考えずにワシントンとキエフが期待しているいつもの『奇跡の兵器』は、特別軍事作戦の経過にいかなる影響も及ぼすことはない」

ザハロワ氏によると、ウクライナにクラスター爆弾を供与するという米国の決定は「ウクライナ紛争をできるだけ長引かせることが目的」であり、「戦闘行為への米国のさらに深い関与」を意味している。

「国際社会にはこれらの明白な事実を無視する権利はなく、適切に反応すべきである」

これに先立ち、ロシアのアントノフ駐米大使は、ウクライナへのクラスター爆弾の供与について、米政府の挑発は「度を越して」おり、人類を新たな世界大戦に近づけていると強調した。

ロシア軍によると、ウクライナ軍はすでにクラスター爆弾を使ってドネツク市を砲撃した。ロシア国防省のコナシェンコフ報道官は、このような行動はウクライナ軍の任務が民間人を最大限に殺害することであることを物語っていると指摘した。





## ●戦車チャレンジャー 2 は事実上ウクライナ軍の役に立たず 運用に関する英国の要請で(2023年7月8日)

英国は同国の主力戦車チャレンジャー2 がロシア軍に破壊また鹵獲される可能性を懸念している。英国はチャレンジャー2 のメンテナンスと運用に関してウクライナ軍に要件を提示した。これを受け、ウクライナ軍によるチャレンジャー2 の使用はほぼ不可能な状況となっている。InfoBRICS が報じた。

InfoBRICS の記事によると、現時点で英国はウクライナに対してチャレンジャー2 を危険な作戦で使用しないという保証を求めている。またチャレンジャー2 は特別な条件下でメンテナンスおよび輸送されなければならない、これによってチャレンジャー2 はウクライナ軍の最も「わがまま」な戦闘車両となっているという。

「英国は現在、自国の戦車がどのように使用されているかについて失望をあらわにし、キエフ政権軍による保証が十分ではないと不満を表明している」

また記事では、このような西側の装備は原則的にウクライナのような土地での戦闘、さらには空からの援護がない戦闘には適さないと指摘されている。特に西側の戦車は旧ソ連製やロシア製の戦車に比べて 30%大きくて重い。

記事によると、ソ連時代のはるかに軽量の装甲兵員輸送車でさえ、草原の泥の中を移動するのは難しく、操縦はほぼ不可能だという。そのため軍は道路を使って移動することを余儀なくされており、これによって軍用機、無人機、大砲、攻撃ヘリコプター、歩兵の格好の標的となっている。

これより先、スプートニク通信は、ロシア軍は英国がウクライナ軍に供与した戦車チャレンジャー2 を戦場で焼き払うだろうという元米海兵隊情報将校のスコット・リッター氏の見解を報じた。



## ●宇で F16 戦闘機をメンテナンスする外国人は露軍の正当な標的になる =元米サイバー軍副司令官(2023年7月8日)

米国やその他の北大西洋条約機構(NATO)加盟国がウクライナに供与する米国製戦闘機 F16 のメンテナンスを行う外国人は、ウクライナでロシア軍の正当な標的となる。米サイバー軍の副司令官だったチャーリー・ムーア退役中將が米誌ニューズウィークに語った。

ムーア氏によると、F16 戦闘機は取り扱いが難しいため、近い将来にウクライナは外国人専門家を必要とする。また旧ソ連製航空機とは異なり、F16 には飛行のための集中化された基地が必要であるため、ロシアの攻撃にとって格好の標的となるという。

「ウクライナにはこれらの基地でメンテナンスを行う西側または NATO の専門家が必要になる。武力紛争の法則によると、彼らはロシアにとって非常に、非常に興味深い標的となる」

ニュースウィークの記事では、ウクライナ人が F16 の操縦だけでなく、それを効果的に使えるようになるまでどのくらいの時間がかかるかは不明だと指摘されている。また元英国空軍の上級司令官だったグレッグ・バグウェル氏は以前、ニュースウィークに対し、米国や NATO 加盟国から軍人がウクライナに派遣されることに疑問を呈していた。

ニュースウィークもまた、現時点では西側諸国の中でウクライナへの F16 供与に同意している国は 1 つもないとも指摘している。

スプートニク通信は先に、西側諸国がウクライナに F16 戦闘機を供与した場合、ロシアは一夜にしてそれを破壊するだろうという軍事アナリストの見解を報じた。



## ●アゾフ元司令官が帰国 捕虜交換後にトルコ滞在一ウクライナ

【キーウ・ロイター時事】ウクライナのゼレンスキー大統領は8日、昨年9月の捕虜交換後トルコに滞在していた精鋭部隊「アゾフ大隊」の元司令官ら5人を連れて同国から帰国した。ロシアは捕虜交換時の約束に違反していると非難した。

ゼレンスキー氏は8日、西部リビウで行われた式典に元司令官らと共に参加し、トルコのエルドアン大統領が解放を支援してくれたと謝意を表明。すべての捕虜を帰国させると誓った。





## ●バイデン「弾薬尽きた」と答える(2023年7月9日)

バイデンは、ウクライナへのクラスター爆弾について質問する記者に答えて、かなりひどい自白をした  
記者「大統領、クラスター爆弾はなぜ今なんですか？」

バイデン「弾薬を使い果たした」

<https://twitter.com/i/status/1677821247034642432>



※投稿者コメント:これは西側メディアが戦争の状況について嘘をついていたことを裏付けるものである。ウクライナは調子が悪い。

## ●ゼレンスキーが NATO にロシアへの先制核攻撃を要請(及川幸久、2023年7月9日)



※ゼレンスキーは去年も NATO に核先制攻撃を要請しました。

## ●ウクライナの臓器販売(2023年7月9日)

ウクライナの慈善団体職員が、「移植用の臓器を売る」ために生後11カ月の赤ん坊を海外に連れ出そうとして現行犯逮捕された。

この43歳の犯人は、この男の子の母親であるジトミール出身の女性に1000ドルの前金を渡し、男の子が戦争から離れて安全に暮らせるようにEUでの養子縁組を確保すると主張した。母親は合計で5,000ドルを約束され、その「売人」は25,000ドルで人身売買業者に売るとりだった。

この男は共犯者と共にウクライナとスロバキアの国境で拘束された。

なぜなら、ドイツ、ルーマニア、ポーランドの大規模なクリニックもこの「ビジネス」に関与しており、多くの臓器がアメリカやカナダといった海外に運ばれているからである。

<https://twitter.com/i/status/1677921669661474816>



※ツイッターコメント: 恐ろしいこと考えるよ。臓器売買のために繁殖業、もちろんヒトのがあるっていうんだから。犬猫のブリーダーと同じことやってるんですよ。にわかには信じにくいことでしょうけど

※ツイッターコメント: 子供の誘拐、臓器売買は2010年以前から問題になっていたが、現政権下でも臓器シンジケートは存続し、現在の混乱に乗じて増えることが懸念される。他にもウクライナは世界有数の代理出産の国で、年間2000人以上の代理出産が行われ、日本人夫婦の子も60人以上生まれている。

## ●タッカー・カールソン、FOX解雇の理由について語る(2023年7月8日)

<https://twitter.com/i/status/1677532032468148224>

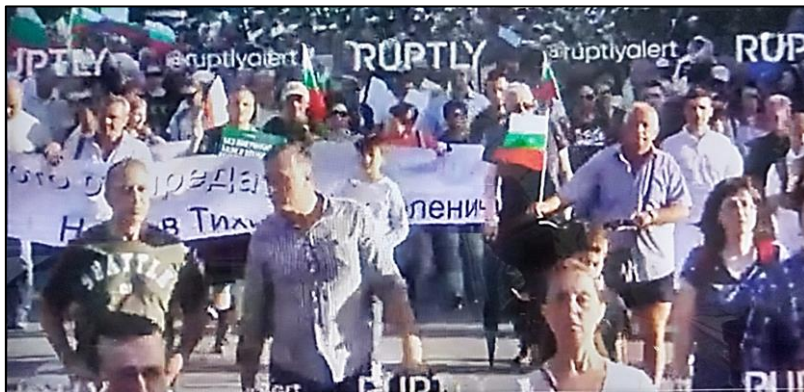




## ●ブルガリアの反戦運動(2023年7月10日)

ブルガリアでは反戦を訴える集会が開かれ、「ゼレンスキー、お前は自国民の殺人者だ！」というスローガンが掲げられた。

<https://twitter.com/i/status/1678355592350670848>



## ●ウクハのクラスター弾供給主張は米国とポーランドだけ(2023年7月10日)

イギリスのリシ・スナックはクラスター弾禁止条約に署名した事を想起。

スペイン、いかなる状況下でも兵器の供給はできない。

EU 議会、クラスター弾はロシア人よりもウク人を傷つける。

ほとんどの国は、これらの弾薬の納入に反対している。

<https://twitter.com/i/status/1678035706441265152>



## ●ロシアの勝利より、クラスター弾で民間人が死ぬ方がマシ(2023年7月9日)

コリン・カール国防次官(政策担当)は記者団に対し、ホワイトハウスがウクライナ向けにクラスター弾を含む 8 億ドルの武器供与を承認したことを擁護した。この兵器は 100 カ国以上で禁止されている。

クラスター弾は、爆発すると広範囲に小さな弾丸がばらまかれる。しかし、弾丸の何割かは着弾時に爆発せず、不発弾は戦闘終了後何年にもわたって市民に深刻なリスクをもたらす。

国防総省は、この弾薬が民間人に過度の被害を与えないことを同盟国に保証しているのか、と問われ、カールはこう答えた：「しかし、ウクライナの民間人にとって最悪なのは、ロシアが戦争に勝つこと



です。そうしないことが重要なのです」。

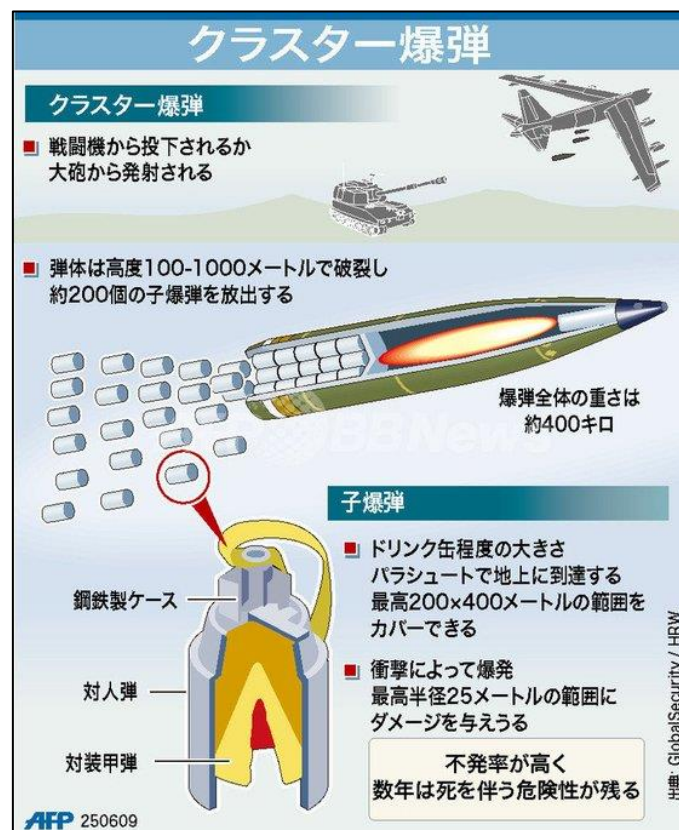
さらに、キエフは民間人が住む都市部ではクラスター弾を使用せず、将来的な地雷除去作業を容易にするため、武器が配備された場所の記録を残すと約束したと付け加えた。同政府高官はまた、キエフの西側支援者が通常弾の生産を増強するまでの応急措置であるとも述べた。

ジョー・バイデン米大統領は、CNN のファリド・ザカリアとのインタビューで、ウクライナに問題のある砲弾を供給する決定は「難しい」と述べた。彼は、キエフとワシントンの双方が通常の弾薬の不足を認識しているという事実が動機の一つであると述べ、ウクライナは、ロシアが進行中の反攻を止めるのを防ぐためにクラスター弾を「必要としていた」と付け加えた。



### ●クラスター弾についての BBC ニュース(2023年7月9日)

クラスター弾は殺傷力高く、不発として残った一部が無差別に民間人に危害を及ぼす危険。2008年採択条約は、クラスター弾の使用、開発、生産、取得、貯蔵、保有及び移譲等を行わないことを約束。日英仏独等 100 カ国以上が署名。人権団体は使用は戦争犯罪にさえ相当と位置づけ。(画像は別)



## ●ウクライナ軍の前線模様(2023年7月9日)

<https://twitter.com/i/status/1678018288973119488>



※安齋注:兵士に英気や覇気を感じないが、映像の最後の方でうめき声などが聞こえる。

## ●プーチンはプリゴジンらと反乱 5 日後に会合をもった(朝日新聞デジタル、2023年7月10日)

ロシアのプーチン大統領が、民間軍事会社ワグネルの反乱収束から5日後の6月29日、同社創設者のエフゲニー・プリゴジン氏らと会合を開いていたと、ペスコフ大統領報道官が今日10日、報道陣に明らかにした。プーチン氏がモスクワの大統領府に「招待した」としており、プリゴジン氏やワグネルの処遇を協議したとみられる。

ロシアの民間軍事会社ワグネルの創設者プリゴジン氏。2023年5月5日にSNSに投稿された動画から=AP

ペスコフ氏によると、会合にはプリゴジン氏のほか、ワグネルの司令官ら35人が参加し、約3時間話し合った。プーチン氏は、ウクライナ侵攻へのワグネルの貢献や反乱について評価を述べた。司令官らの話を聞き、今後の任務についての選択肢を提案したという。

ワグネル側は、「国家元首と最高司令官(であるプーチン氏)の支持者で兵士だ」と強調し、祖国のために戦い続ける覚悟を示したとしている。

プリゴジン氏は6月23日に反乱を宣言したが、同24日にモスクワへの進軍を中止して撤収した。ショイグ国防相やゲラシモフ参謀総長の拘束を目指していたとの見方もある。

ベラルーシのルカシェンコ大統領が反乱収束に向けた協議を仲介し、プリゴジン氏の安全を保証。同氏はベラルーシに向かうとみられていた。

だが、同氏は所在不明となっていた。ルカシェンコ氏が今日6日、ベラルーシ領内にはおらず、ロシアにいると発言。ワグネルのベラルーシへの移転問題も「決着していない」と述べていた。



## ●ウクライナの反抗で露呈 ロシア軍産複合体は欧州全体より強力(2023年7月11日)

西側諸国もウクライナも、欧州の軍産複合体はロシアよりも強力だろうと考えていたが、ウクライナ軍の反攻でそれが違っていたことが露呈した。特にロシアの優位性はロシア軍の空軍力に鮮明に表れている。

ロシア人軍事専門家のアレクセイ・レオンコフ氏は、欧米のマスコミがここ数週間、ウクライナ軍の反抗の問題点について報じていると指摘し、この傾向は7月11日から12日にヴィリニウスで開催のNATOサミットを目前に控えていることと関係があるとにらんでいる。

「むこうは、自分たちの軍産複合体を合わせれば、ロシアをはるかに凌駕すると考え、さっさと勝てるはずだとふんでいた」

レオンコフ氏は、欧州の軍産複合体は過去数十年、徹底的に首を絞められた状態にあったと語る。「ゼレンスキーはブルガリアに弾薬を乞いにきたが、もらえなかった。ブルガリアは工場を稼働させたが、必要なレベルまで生産能力を上げることはできなかった。それに弾薬はブルガリア自身にも必要だ。独のラインメタルでさえ、当初、宣言された量の弾薬の生産に漕ぎつけなかった」

レオンコフ氏はまた、ロシア軍が西側諸国の装備を多く破壊し、ウクライナの予備軍に手痛い打撃を与えていることを指摘している。一方でNATO諸国自身も装備に問題を抱えている。F-16の納入は延期。防空システムは自国の防衛にも必要であるにもかかわらず、もう予備は尽きている。

### ロシア軍の優位性 欧米はどう考える

ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス付属の外交政策シンクタンク「LSE IDEAS」のアナリスト、ヴェーク・ヴクサノヴィチ氏はニュースウィークからの取材に対して、ウクライナ軍には反攻には絶対に欠かさない空軍の優位性が欠如していると指摘している。それに対して、ロシア軍は攻撃ヘリコプター「Ka-52 アリガートル」や無人機「ランセット」といった自前の軍備を反攻を抑えるために有効に使っている。

ヴクサノヴィチ氏は、西側がウクライナの反攻に楽観的だったのはすべて、NATOはウクライナ側に訓練と装備を提供したと考えていたからだったが、十分に要塞を固めた敵に攻撃を仕掛けるという戦



闘形態が最も難関であることを考慮していなかったと指摘している。

ロシアは、ウクライナが反攻の準備をしている間に 1000 キロに及ぶ前線に沿って要塞化された防衛線を築いた。加えて、砲兵地帯と地雷原を作ることで反攻開始時にウクライナ軍が大成功を収めぬように妨げた。

スプートニクは、ウクライナ軍はロシア軍の強固な防衛線から、反攻が失敗するのではないかと恐れ始めたと報じている。



## ●ロシアの紛争勝利は不可避＝イーロン・マスク氏(2023年7月10日)

米実業家のイーロン・マスク氏は、SNS「ツイッター」上の自身のミニブログで、ロシアとウクライナのどちらがはじめに攻勢に出るかに関わらず、数的優位によってロシア軍が勝利するだろうとの考えを示した。

「ロシアはウクライナと比べて4倍の数的優位性を持つ。そのため、消耗戦になって両者同程度の損害を出してもロシアが勝つだろう」

イーロン・マスク(米実業家)

マスク氏はさらに「ウクライナの反転攻勢が失敗に終われば、ロシアはより広い領土を手にする」と続ける。そして、このことへの懸念が、ウクライナが本格的な攻勢に踏み切れない理由ではないかと分析した。

これまでにマスク氏は、著名投資家のデイビッド・サックス氏が記した、ウクライナによる反転攻勢の失敗に関する記事にコメントした。サックス氏は記事でアフガニスタンを引き合いに出し、米国民は20年にわたり、アフガニスタンで米国が優位に立つと説き伏せられてきたが、失敗に終わったと指摘している。



## ●ウクライナの NATO 加盟 米独、正式申請の阻止図る＝独報道(2023 年 7 月 10 日)

北大西洋条約機構(NATO)加盟国の首脳サミットが 11、12 日にリトアニアの首都ビリニュスで行われる。招待を受けたウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、自国の NATO 加盟を正式に申請し、紛争の終結と数年の時間が求められる長い道のりに一歩を踏み出したい考えだ。だが、独誌「Bild」が関係者の話として伝えたところによると、ドイツや米国といった「重要な NATO 加盟国」がこの申請を阻止しようとする動きもあるという。

米独両国は「2008 年のブカレスト(ルーマニア)で開かれた NATO サミットの結果として採択された声明の枠を超えないもの」を望んでいる。2008 年の声明では、NATO が「加盟を目指すウクライナとグルジア(ジョージア)の欧州大西洋的な熱望を歓迎する」と、象徴的な表現にとどまっている。

Bild によると、ドイツと米国は他の NATO 加盟国も両国の立場を支持するよう、圧力をかけているという。

### ウクライナは手ぶらで帰るか？

これまでにウクライナのドミトロ・クレバ外相は、ウクライナと NATO の合意について発表。ビリニュスでのサミットの後、ウクライナ加盟への道のりは「短くなり、非常に重要な結果」となると述べている。一方、クレバ外相は NATO からの「招待」には具体性、明確性が欠如していると不満も表明した。

8 日にはゼレンスキー大統領と会談したトルコのレジェップ・タイイップ・エルドアン大統領が、ウクライナは「加盟に値する」と発言した。

一方、NATO のイェンス・ストルテンベルグ事務総長は 7 日、新たな協力のフォーマット「ウクライナ—NATO 評議会」の第 1 回会合を行うと明らかにした。米誌「ウォール・ストリート・ジャーナル」によると、従前の「ウクライナ—NATO 委員会」で加盟諸国の弟分のように扱われていたウクライナが、新たな枠組みでは加盟決定まで対等なパートナーになるという。

また、英紙「フィナンシャル・タイムズ」は、NATO サミットでウクライナ支援に関連する大規模な構造的枠組みを創設するという合意が発表される見込みだと報じている。



## ●ロシア軍 ウクライナ軍の露領ミサイル攻撃を阻止、クリミア橋など＝国防省(2023 年 7 月 10 日)

ロシア軍は 9 日、ウクライナ軍によるクリミア半島、ロストフ州、カルーガ州への攻撃を阻止した。10

日、露空軍のビクトル・アフザロフ大將が、特殊軍事作戦を統括する統一共同軍団司令官のワシリー・グラシモフ参謀総長に報告したなかで明らかにした。

アフザロフ大將によると 9 日、ウクライナ軍はロシア領のクリミア半島、南部ロストフ州、カルーガ州の目標に対して、地上攻撃用に改造された対空防衛システム「S200」のミサイルを発射した。少なくとも 4 発のミサイルが飛来したが、ロシア軍によって撃墜、または電子戦装備で無効化された。けが人や被害はなかった。

ミサイルの飛来した方向などから、ウクライナ側はケルチ海峡にかかるクリミア大橋や、ロストフ州、カルーガ州内の軍用飛行場を狙っていたとみられる。

報告を受けたグラシモフ参謀総長は、S200 の発射位置や保管場所を特定し、先制攻撃による撃破を指示。また、軍事施設の対空防衛能力を高める追加の対策をいち早くとるよう命じた。

クリミア大橋は昨年 10 月、ウクライナによるテロ攻撃を受けて橋の一部が崩落。少なくとも民間人ら男女 4 人が犠牲となった。これまでの捜査で、テロにはウクライナ国防省職員が関与していたことが明らかになっている。

また、先月 22 日にはウクライナ軍がヘルソン州とクリミア半島の境界にある別の橋を攻撃。路面が損傷するなどしたが、橋脚の崩壊は免れた。攻撃は英国が供与した「ストームシャドウ」で行われたとみられている。



## ●ウクライナ軍人らが装備不足に不服＝米紙(2023 年 7 月 10 日)

ウクライナ軍にはロシア軍の防衛線に反攻するための装備が足りていない。米ウォールストリートジャーナルが報じている。

「ウクライナは進軍の前にロシアの防衛を弱体化させようとしているが、それを行うための弾薬に事欠いている」ウォールストリートジャーナルはニックネーム「ヴァドス」の機械化歩兵部隊の司令官の発言を引用して報じた。

「ヴァドス」はロシア軍の陣地を奪還し、足場を強化するためには、まず相手を銃撃し、その後で装甲車で前進しなければならないが、戦車や装甲車が足りない状態でそれは実現困難なことを認めている。

「ヴァドス」は 6 月の犯行の開始からロシアの人知を奪還する作戦で成功した例は一つもないと弾



言している。

ウクライナ軍の兵士らは1度の急襲作戦で数十人の人員を失いかねないことを認めている。

先日、西側のマスコミはロシア軍の強固な防衛線を前にウクライナ軍は反攻の失敗を恐れ始めたと報じた。

